

Title	新アルファベットの発見と解讀：シリヤのラス・シヤムラに於ける
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.28- 28
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0028">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0028</a>

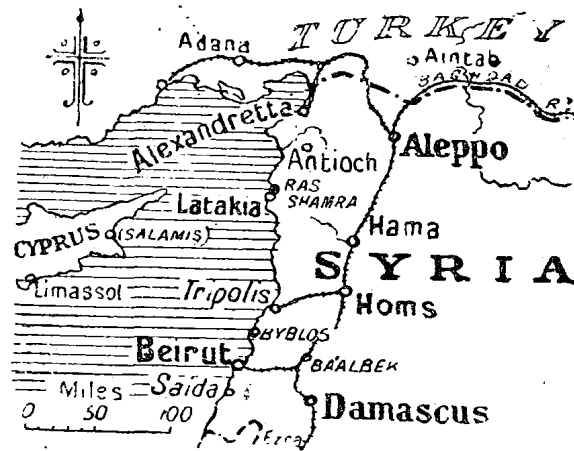
慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 新アルファベットの發見と解讀

(シリアのラス・シャムラに於ける)

近時、考古學的發掘之に伴ふ諸研究、殊に古代文字の解讀が史學の進歩に資しつゝあることは實に驚嘆に價するものがある。一九三〇年十二月二十五日のロンドン・タイムス週刊は又一つの快報を我等に齎らした。古代東方の歴史の再建は、之によつて更に一步を進むることが出來やう。



一昨年五月、ラタキアに近きラス・シャムラ (Ras Shamra. 上圖を見よ) に於けるテル (丘) の發掘は金石學者達に是迄知られざる新種類の楔形文字が銘刻せられてゐる土版を世に出した。曾つて同地に於ける考古學的研究團長 (Head of the Archaeological Service) を務め今はソルボンヌに教授せるヴィロロー (Violleaud) 氏は其後更に豊富な記銘の發見せられたため是等土版を明確に解讀し得たを報せられる。

現ラス・シャムラに於ける考古學的研究團長シェーフェルの言ふ所によれば、其の發見せる第一の土版は破壊せられた建築物の石材及び灰燼よりなる厚き層土の下に埋藏せられてゐたといふ。それ等は再び火熱を受けたために極めて脆弱となつてゐる。是等土版は紀元前十三世紀頃に日附せられる (と信ぜられる) アルファベットよりなる記銘を有するが故に言語學者と歴史家との間に大なる感興を湧かせたのである。

本土版の主要研究者たるヴィロロー氏は言語の性質に關しての註解及び或る種符號の意味を附して、全正文の謄寫を公にした。がしかしこの解讀の企を繼續するためには更に土版の發見を必要とするのであつた。

然るに昨春に於ける發掘は豫期以上の最も愉快なる結果を齎らした。新土版が發見せられ、その大なるものには密なる正文の三列乃至四列が刻してあるのみならず、(百科辭典にも比すべき) 辭典と一つの新語を解くべき二國語併用の極めて稀なる辭書を出したのである。是等の全材料は附近に發見せられた聖殿に附屬する學校の所有物であつたに相違ない。こゝに青年僧侶達がラス・シャムラに於て使用せられる諸國語 (六種の) と共に、困難なる史生の業を學ぶのであつた。この聖殿は明かに古代東方の最も重要なる諸交通路の交叉點に當り、その住民にこの多國語的の文字を與へたのである。

スメルミバビロニヤの綴字書の研究は佛國學士院會員ツローダンジャン氏に依頼せられてゐるが、それは別にこの土版は再びヴィロロー氏に委託せられた。是等土版は正文約一千行を含んでゐる。ヴィ氏は數週間にその體系を編成することを得た。初めて試みられた際の解釋の誤謬はこゝに訂正せられて、この解讀は間もなく決定的なものとなつた。このラス・シャムラの記銘は純然たるアルファベットをなせるもので、カナンのアルファベットが僅に二十二字よりなれるにこのアルファベットはアラビヤ文字のそれと同じく、二十八字よりなるものである。一九三一、一、一二日 (間崎万里)